

まん
なか

院長交代

新院長の意気込み

新院長 大蔵 隆文

名誉院長 風谷 幸男

2025.8
夏号

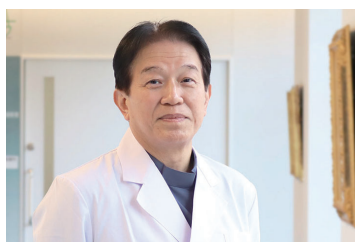
新院長 大蔵隆文 プロフィール

福岡県北九州市出身。1986年愛媛大学医学部卒業後、同大学病院、松山赤十字病院、JCHO宇和島病院で研修後、愛媛大学に戻り研究及び臨床を行い、循環器専門医と腎臓専門医を取得。2017年、恩師の縁で市立八幡浜総合病院にサテライトを有する地域救急医療学講座の教授に就任し、3年後、市立八幡浜総合病院の院長に就任。

●資格：日本内科学会総合専門医・指導医、日本循環器学会専門医・Fellow of Japanese Circulation Society (FJCS)・指導医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本高血圧学会専門医・指導医、日本心臓学会Fellow of Japanese Collage of Cardiology (FJCC)、日本老年病学会専門医・指導医

●趣味：『鬼滅の刃』鑑賞、関連グッズの収集

職員全員で協力して病院を運営する



私は前任の病院で5年間院長を務めました。その間の大半は新型コロナウイルスへの対応に追われていました。コロナ禍での病院運営に関しては、院長が求心力をいかに

に発揮するかを問われたように思います。ポストコロナにおいては、職員全員が協力し合い、多様な意見を取り入れ、その中で、院長は最終的な判断を下し、その結果に責任を負う立場だと思っています。

今後の当院の新たな変化

今年度から耳鼻咽喉科に常勤医が着任し、来年度には泌尿器科にも常勤医の赴任が予定されています。これにより、手術支援ロボットの導入も視野に入れています。また、今年度心臓カテーテル装置は更新が完了し、さらに、近い将来にはMRI装置の更新も予定しています。今後も設備の充実を図り、

診療体制のさらなる強化を目指しています。

腎機能を守る医療を地域に届けるために

当院では2025年4月より腎臓内科を標榜しています。愛媛県内では腎臓専門医の不足が指摘され、地域医療の課題となっています。幸い近年では、内科的治療が進歩し、透析に至らないための早期介入が可能となり、透析患者数も減少傾向にあります。腎機能を守るための医療が着実に確立されつつある今、当院においても腎疾患の早期発見・治療を提供し、地域に貢献していきたいと考えています。

当院腎臓内科へご紹介のタイミングとは

腎疾患を合併する患者さんの多くは慢性に経過し、同じ治療を長年継続されていることが多いかと思います。その中で、「このまま経過観察を続けてよいのだろうか」と少しでも疑問を感じられた場合には、ぜひお気軽に当院腎臓内科にご紹介ください。

地域完結型医療の実現に向け連携強化を

病院は「地域と共に成長し続ける存在」であるべきだと考えています。病院がいくら連携を強化したいと考えても、信頼されなければ真の連携は成立しません。地域完結型医療の実現のためには、信頼される医療を提供し、地域の医療機関の皆さまとも緊密に連携していくことが欠かせません。

一歩ずつ着実に前進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



インタビュー全文はこちら▶

